

張弦梁改造工法を利用したダイナミック・コンバート技術  
 —ケーブル架構を利用しフロアの組み替えを可能とした改造工法—

張弦梁改造工法とは

既存工場に対し、構造体および設備を大規模に変更し、次期生産ラインに適した施設に改造する「ダイナミック・コンバート技術」の一手法。

当社の強みである橋梁に多く用いられるポストテンション技術の採用により、次期生産ラインで支障となる中間柱およびそれに取り付け床・大梁の撤去を可能とした既存建物の改造工法（特許申請中）です。

切断する既存中間柱を束材として利用するポストテンションケーブル架構を構築することによって、大空間建物への改造を可能としています。

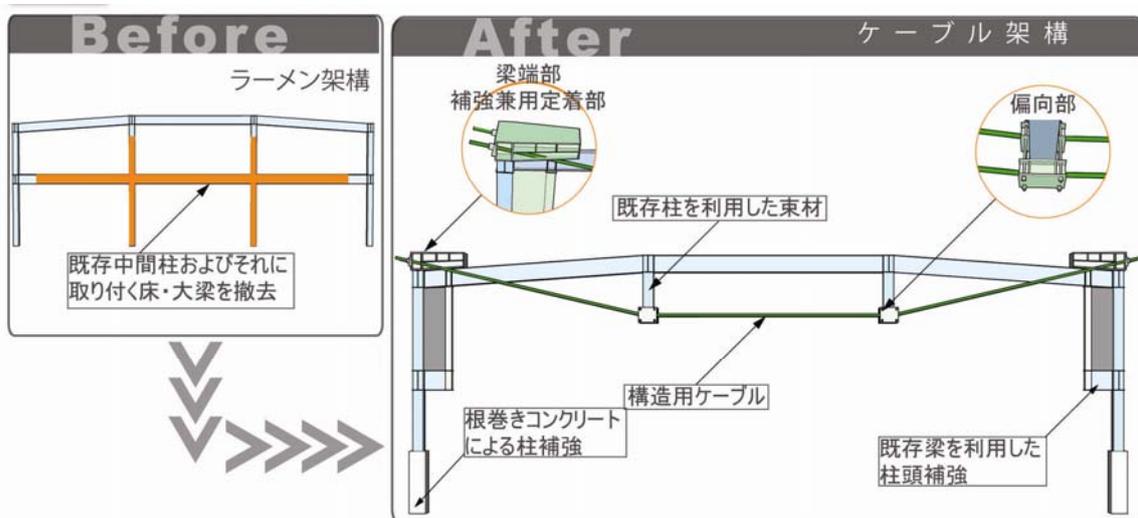
特徴



- 既存中間柱およびそれに取り付け床・大梁を撤去し、大空間建物へ改造します。
- 切断する既存中間柱を束材として利用し、ケーブルの高低差を大きく取ることができ、大スパン架構が可能です。
- ケーブルの張力、径、本数を調整することによって、応力とたわみを制御できます。
- 既存構造部材の補強に撤去する部材を有効利用するため、環境にやさしく経済的です。

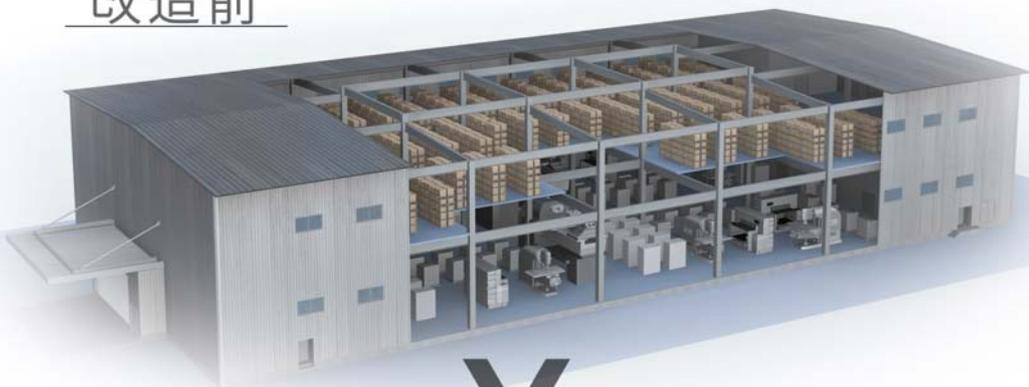


ケーブル架構（例）



# Dynamic convert 張弦梁改造工法のイメージ

改造前



改造後

